



2026年度 創発的研究支援事業 公募概要説明

概要のみの紹介です。
応募にあたっては募集要項をお読みください。

国立研究開発法人科学技術振興機構
創発的研究推進部

事業の概要

挑戦的・融合的な研究構想に、リスクを恐れず挑戦し続ける**独立前後の研究者**を対象に、**最長10年間の安定した研究資金**と、**研究に専念できる環境**を一体的に提供。



博士・ポスドク等

“創発研究者”

中堅独立研究者

応募要件：

独立前後の研究者

- 博士号取得後15年以内
(出産・育児等経験者は要件緩和)

科学技術振興機構
(JST)

基金を造成

※2段階の書面+面接審査により人物本位で**挑戦性・独創性**などを評価。

- **最長10年間、700万円/年(平均)+間接経費**
- 研究以外の業務代行経費や、自身の人件費も支出可能
- 研究の状況に応じ、リサーチアシスタント (RA) として参画する博士学生等への人件費を追加支援



意欲と研究時間を最大化し、**生き活きと研究に専念**

- 創発研究者が**研究に専念できる環境確保に取り組んだ大学等に対し追加支援** (研究時間、ポスト、スペース、スタッフ等)



研究キャリアの発展的展開を支援

- JSTのプログラムオフィサーによるメンタリングや**研究者同士が触発する“場”**を形成



破壊的イノベーションに
つながる成果の創出



最適な研究環境のもと
更なるステップアップへ
(大型資金、企業連携、拠点長、起業…)



研究期間、研究費等

- ✓ 研究期間 原則7年間（最大10年間）
フェーズ1（3年間）・フェーズ2（4年間）
3年目にステージゲートあり
- ✓ 研究費
（直接経費） 5,000万円（上限）
フェーズ1：2,000万円（上限）
（間接費：直接経費の30%が上限）
※別途、RA追加経費支援あり（予定）
- ✓ 採択予定件数 250件程度

詳細は、募集要項 2.3 ~ 2.5 へ



2026年度公募スケジュール

研究提案の募集開始	<u>2026年3月27日（金）</u>
研究提案の受付締切 (e-Radによる受付期限日時)	2026年5月14日（木） 午前12時（正午）＜厳守＞
書類選考期間	2026年5月下旬～6月
面接対象者への通知	2026年6月下旬～7月
面接選考期間	2026年6月下旬～8月
選定課題の 通知・発表	2026年10月以降順次通知・発表
研究開始	2026年12月以降開始



応募における注意事項

- ✓ 指定された募集締切日時（5月14日（木）午前12時（正午））までに応募が完了していない提案については、いかなる理由があっても不受理とします。
- ✓ また、募集締切日時以降の提案書の差し替え等には応じられません。
- ✓ 締切間際はe-Radにアクセスが集中することでレスポンスが遅くなる可能性がありますので、十分な時間的余裕をもって、応募を完了してください。締切日前日までの応募をご検討下さい。



前回公募からの主な変更点（1/2）

- ✓ 今回の公募よりPOとアドバイザーが三代目に交代となります。
- ✓ 三代目POについては以下のURLをご参照ください。
- ✓ 三代目アドバイザーについても随時更新しますので、ご参照下さい。

https://www.jst.go.jp/souhatsu/research/all_panel.html

三代目創発パネル
相澤パネル PO・アドバイザー・研究者一覧
小熊パネル PO・アドバイザー・研究者一覧
折茂パネル PO・アドバイザー・研究者一覧
片桐パネル PO・アドバイザー・研究者一覧
金光パネル PO・アドバイザー・研究者一覧
君塚パネル PO・アドバイザー・研究者一覧
•
•
•

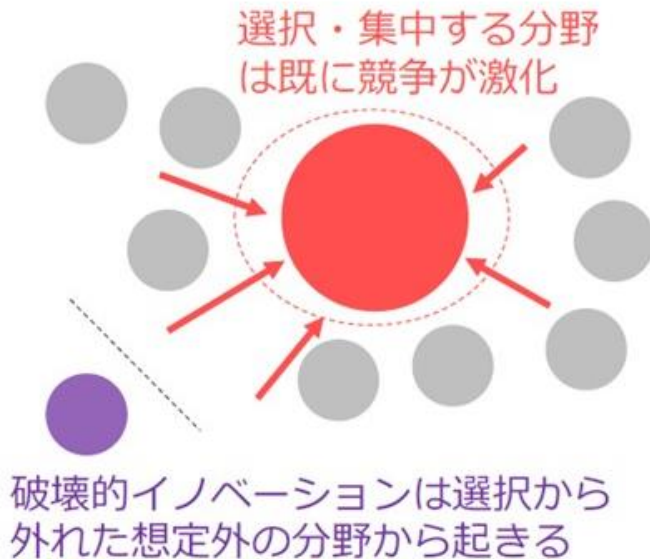


前回公募からの主な変更点（2/2）

- ✓ 2.6.1 応募者の要件（2）研究提案者の要件のうち、研究費獲得経験について以下のとおり変更しました。
- ✓ これまでは「**過去2年間**」に受給実績があることとしておりましたが、今回の公募より、「**過去**」に受給実績があることに変更となりました。

【新】2026年度募集要項	【旧】2025年度募集要項
<p>g. 自己の責任と権限により使用することが可能な公募による研究費（研究代表者として扱える公募にて獲得した研究費）を、過去に受給していたことがある、又は現在（2026年度）受給中であること。 なお、これに準ずるものとして、現在までに研究費を受給していない特段の事情がある場合などは提案書に理由を明記すること。</p>	<p>g. 自己の責任と権限により使用することが可能な公募による研究費（研究代表者として扱える公募にて獲得した研究費）を、過去2年間（2023年度、2024年度）に受給していたことがある、又は現在（2025年度）受給中であること。 なお、これに準ずるものとして、現在、または、過去2年間に研究費を受給していない特段の事情がある場合などは提案書に理由を明記すること。</p>

選択と集中



戦略と創発



出典：Society5.0の実現に向けた「戦略」と「創発」への転換（日本経済団体連合会）

創発とは（「組織論」より）

「個人個人の能力や発想を組み合わせる取組により、ある一定の要件に基づいた予測や意図を超えるイノベーションを誘発する様」



創発的研究支援事業の特色

破壊的イノベーションにつながるシーズ創出のために、 創発的研究を支援

- ✓ 失敗を恐れない野心的な**挑戦**への支援
 - ・ 長期的研究費（原則7年・最長10年）
 - ・ 独立した/独立予定の研究者が対象
 - ・ 研究に専念できる環境整備を支援
- ✓ **多様性**の向上
 - ・ 多様な研究課題・研究者、国際流動性の向上
- ✓ **融合**の促進
 - ・ 創発の場の提供、メンター制度



募集要項 3.4.2 創発的研究の遂行にふさわしい適切な研究環境の確保

本事業では、研究者の裁量を最大限に確保し、各研究者が所属する大学等の研究機関の支援の下で、創発的研究の遂行にふさわしい適切な研究環境が確保されることを目指すこととしています。

例えば、所属機関には「本事業の予算は限定的であることから、本事業で支援する研究者が利用できる研究機器の共用」や、「大学教員の研究時間は短くなっていることから、研究時間確保のための所属機関の配慮・支援」、「研究者の独立に向けた支援」など、研究者の置かれた状況に応じた、きめ細やかな支援を期待します。

なお、**本事業で支援する研究者が創発的研究に集中できる研究環境を確保するため積極的かつ秀でた支援を実施した所属機関に対しては、各創発研究者のフェーズ1終了時に審査を行い、その結果を踏まえ、研究環境整備支援を行います。**

詳細は、「3.4.3 研究環境整備支援」をご参照ください。



独立に関する条件

**独立して世界で戦おうとする気概のある若手研究者
(独立した/独立予定の研究者) を支援します。**

募集要項2.6.1.(3) 独立に関する条件

以下の独立に関する条件を満たすこと、又は原則フェーズ1（3年間）の間に満たすこと

- 自己の研究に係る論文について、責任著者の立場にあること
- 大学院生等^{*1}の指導に責任を持つこと、又は持つ立場にあること
- 研究グループを組織して研究を行う場合は、そのグループの責任者であること
- 研究室を持つこと^{*2}

*1 研究員や学部生も含みます。学位審査権は必須ではありません。

*2 独立した研究を行うために必要な研究設備を設置する部屋や研究を遂行する部屋の管理の責任者^{*3}であること。創発的研究の遂行に必要な場所を確保していること。

*3 管理責任者や安全管理者等として研究機関に登録されていることは必須ではありません。



創発の場・採択後のメンター制度

- ✓ 採択された研究者は、創発を興すために定期的に行われる「創発の場※」に参加・発表・議論・運営等を行って頂きます。

※ 知の触発、融合研究の促進、ネットワーク構築

- ✓ 成果の最大化に向け、創発プログラムオフィサーおよび創発アドバイザーの指導、進捗管理を受けます。

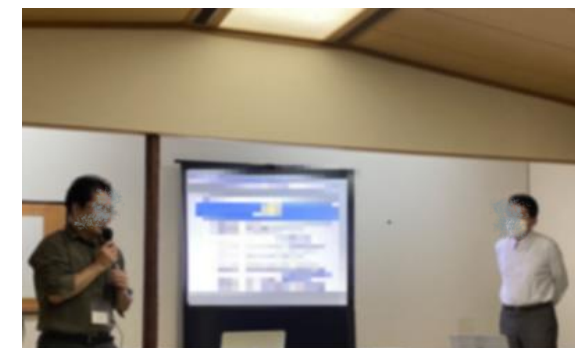
創発とは（組織論より）

「個人個人の能力や発想を組み合わせる取組により、ある一定の要件に基づいた予測や意図を超えるイノベーションを誘発する様」

詳細は、募集要項 3.4.4「創発の場」の形成 参照



多様な仕掛けによる研究者の融合そして知の創発を触発 異分野融合、知の発展を誘発する「創発の場」の提供、開催支援



「創発の場」(各パネルでの開催事例)

創発研究者による「自発的な融合の場」



@札幌



@金沢



@東京



@大阪



@広島



@福岡 ...



第2回「融合の場」(一橋講堂)



第3回「融合の場」(京都大学)

第1回「融合の場」(パネル横断、全国14か所で開催)

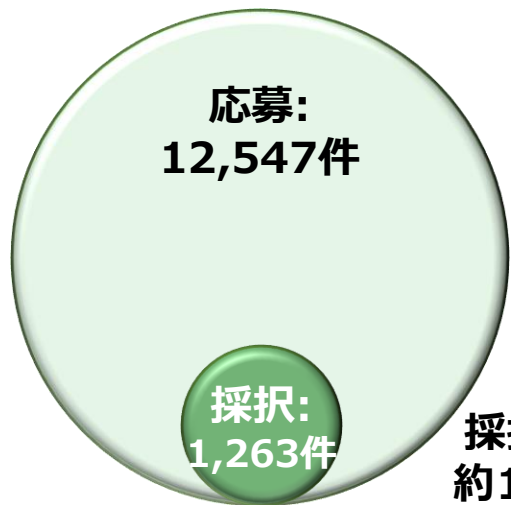


2020～2024年度（第1～5回） 創発的研究支援事業 公募結果の概要

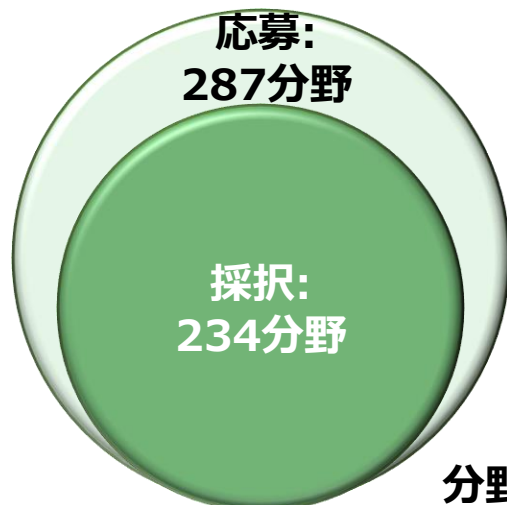


創発的研究支援事業採択結果（5期合計）

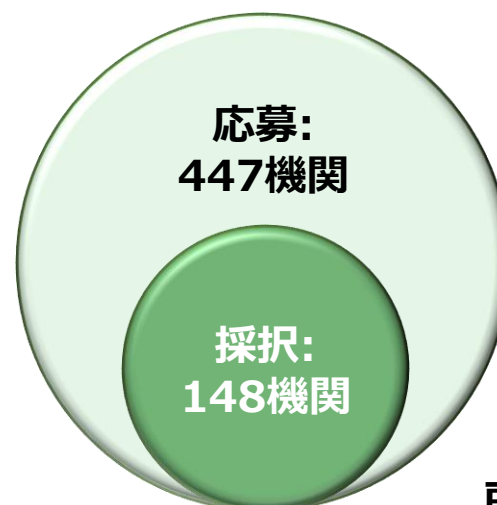
応募時の登録情報



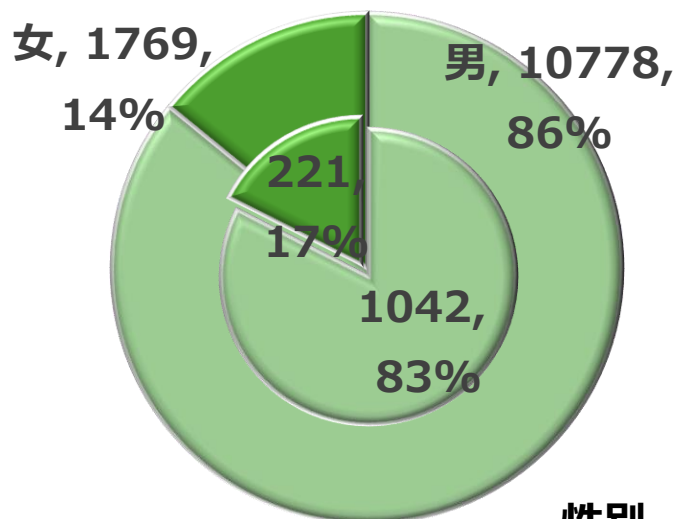
採択率
約10%



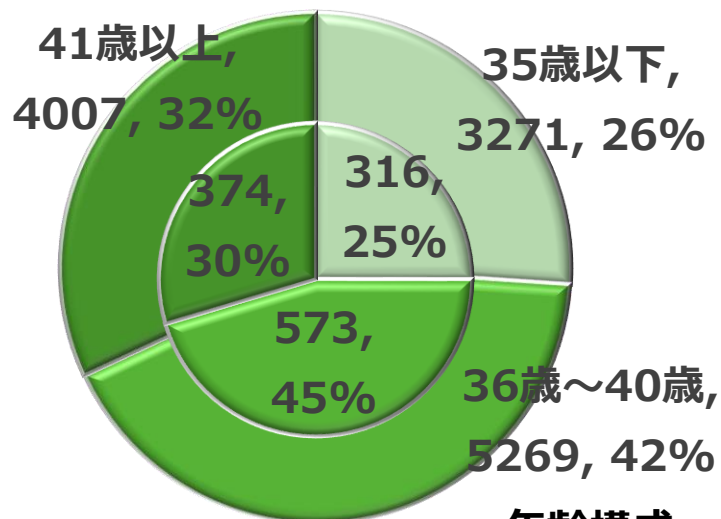
分野



所属機関



性別



年齢構成

創発的研究支援事業採択者所属（採択時所属）

所属	採択
東京大学	163
京都大学	106
東北大学	97
名古屋大学	94
大阪大学	84
九州大学	44
筑波大学	39
東京工業大学	35
理化学研究所	34
北海道大学	33
金沢大学	24
熊本大学	23
産業技術総合研究所	20
慶應義塾大学	19
神戸大学	18
順天堂大学	18
広島大学	18
千葉大学	16
東京農工大学	15
東京医科歯科大学	13
岡山大学	11
物質・材料研究機構	10
早稲田大学	10
徳島大学	9
電気通信大学	9
大阪公立大学	9
新潟大学	9
岐阜大学	9
東京科学大学	8
沖縄科学技術大学院大学	8
国立がん研究センター 分子科学研究所 (自然科学研究機構)	7
量子科学技術研究開発機構	6
奈良先端科学技術大学院大学	5
東京都立大学	5
東京慈恵会医科大学	5
長崎大学	5
山口大学	5
埼玉大学	5

所属	採択
高エネルギー加速器研究機構	5
京都工芸繊維大学	5
海洋研究開発機構	5
愛媛大学	5
立命館大学	4
明治大学	4
名古屋市立大学	4
豊橋技術科学大学	4
鳥取大学	4
信州大学	4
鹿児島大学	4
山形大学	4
国立情報学研究所	4
群馬大学	4
名古屋工業大学	3
富山大学	3
藤田医科大学	3
東京理科大学	3
東京海洋大学	3
長岡技術科学大学	3
自治医科大学	3
山梨大学	3
国立循環器病研究センター 近畿大学	3
横浜市立大学	3
横浜国立大学	3
龍谷大学	2
北陸先端科学技術大学院大学	2
福井大学	2
奈良県立医科大学	2
東京都市大学	2
東京都医学総合研究所	2
東海大学	2
帝京大学	2
摂南大学	2
静岡大学	2
生理学研究所 (自然科学研究機構)	3
生命創成探究センター (自然科学研究機構)	2

所属	採択
情報通信研究機構	2
芝浦工業大学	2
三重大学	2
札幌医科大学	2
国立極地研究所	2
国立環境研究所	2
高知工科大学	2
香川大学	2
九州工業大学	2
京都府立医科大学	2
基礎生物学研究所	2
関西学院大学	2
宇都宮大学	2
宇宙航空研究開発機構	2
お茶の水女子大学	2
琉球大学	1
名城大学	1
北里大学	1
北見工業大学	1
豊田工業大学	1
法政大学	1
兵庫県立大学	1
日本大学	1
日本原子力研究開発機構	1
日本医科大学	1
同志社大学	1
東邦大学	1
東京農業大学	1
東京女子医科大学	1
島根大学	1
長崎国際大学	1
帯広畜産大学	1
総合研究大学院大学	1
千葉県がんセンター(研究所)	1
静岡県立大学	1
青山学院大学	1
成蹊大学	1
森林研究・整備機構	1
昭和大学	1
小山工業高等専門学校	1

所属	採択
秋田大学	1
山陽小野田市立山口東京理科大学	1
国立長寿医療研究センター	1
国立精神・神経医療研究センター	1
国立遺伝学研究所	1
高知大学	1
弘前大学	1
呉工業高等専門学校	1
京都府立大学	1
宮崎大学	1
岐阜薬科大学	1
岩手大学	1
関西大学	1
関西医科大学	1
茨城大学	1
杏林大学	1
愛知県がんセンター(研究所)	1
愛知医科大学	1
ワシントン大学	1
ヨーテボリ大学	1
ミシガン大学	1
マックスプランク研究所	1
マウントサイナイ医科大学	1
ヘルムホルツ協会ミュンヘン	1
フリッツ・ハーバー研究所	1
テキサス大学	1
チューリッヒ大学	1
ソニーコンピュータサイエンス研究所	1
コネチカット大学	1
がん研究会	1
かずさDNA研究所	1
オックスフォード大学	1
オーストラリア国立大学	1
アストロバイオロジーセンター (自然科学研究機構)	1



本資料は概要の紹介です。
応募にあたっては募集要項をお読みください。



白須 賢
理化学研究所

【主担当】農学等

三代目創発PO

(五十音順)

(2026年4月時点)



相澤 彰子
国立情報学研究所

【主担当】情報等

関谷 毅
大阪大学



【主担当】機械・電気
工学等

君塚 信夫
九州大学



【主担当】材料・化学
(有機・バイオ)等

小熊 久美子
東京大学



【主担当】環境・建
築・土木・防災等



高橋 良輔
京都大学

【主担当】脳・神経
科学等



胡桃坂 仁志
東京大学

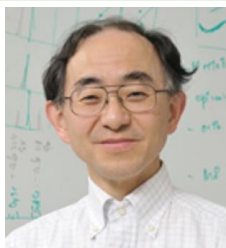
【主担当】生物 (分子・
細胞) 等



折茂 慎一
東北大学

【主担当】材料・化学
(無機・金属)等

永長 直人
理化学研究所



【主担当】数学・物理
・天文・地球惑星科
学等

後藤 由季子
東京大学



【主担当】生物(ゲノム・
発生・進化)等

片桐 秀樹
東北大学



【主担当】臨床(外科・
内科)等



本橋 ほづみ
東北大学

【主担当】基礎医
学・薬学等



佐久間 一郎
東京電機大学
/東京大学

【主担当】臨床(社会
医学・人間医工学)等



金光 義彦
京都大学

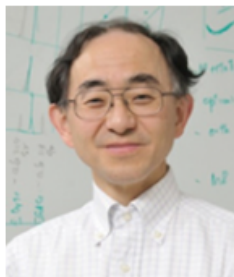
【主担当】材料・化学
(物性・計測・解析)等



創発パネルの構成（創発POと創発AD）

創発PO・創発アドバイザー一覧

創発PO：永長 直人（理化学研究所 基礎量子科学研究プログラム プログラムディレクター / 創発物性科学研究センター グループディレクター）



【専門分野】物性理論

東京大学工学部卒業後、物性研究所助手を経て理学博士号を取得し、同大学で講師・助教授・教授として物性物理学の教育研究に携わり、理化学研究所では創発物性科学研究センター副センター長などを歴任。日本物理学会で活動し、朝日賞、藤原賞、紫綬褒章、仁科記念賞、本多記念賞、湯川記念賞など多数の受賞を重ね、またアメリカ科学アカデミーの外国人会員に選出されるなど国際的評価も高い。磁性、超伝導、強相関電子系やトポロジカル物性の理論研究を先導し、創発電磁場の概念を拓き、量子材料研究の発展に寄与している。若手育成にも尽力し、CREST研究代表者として分野融合的な研究推進にも成果を挙げている。

創発アドバイザー（五十音順）

青木 慎也	理化学研究所 基礎量子科学研究プログラム 副プログラムディレクター
有田 亮太郎	東京大学 大学院理学系研究科 教授 / 理化学研究所 創発物性化学研究センター チームディレクター
井出 哲	東京大学 大学院理学系研究科 教授
伊藤 由佳理	東京大学 国際高等研究所カブリ数物連携宇宙研究機構 教授 / 副機構長
伊藤 好孝	東京大学 宇宙線研究所 教授
犬塚 修一郎	名古屋大学 大学院理学研究科（物理学教室） 教授
河東 泰之	東京大学 大学院数理科学研究科 教授
齊藤 圭司	京都大学 大学院理学研究科 教授
田島 治	京都大学 大学院理学研究科 教授
塚崎 敦	東京大学 大学院工学系研究科 教授
橋本 幸士	京都大学 大学院理学研究科 教授
古澤 力	東京大学 大学院理学系研究科 教授
米田 仁紀	電気通信大学 レーザー新世代研究センター 教授

参照：創発事業HP



創発POの主担当分野およびメッセージ（参考）

創発POが主に担当する分野（永長パネルの事例）

創発パネル	コード	分野	コード	研究の内容
永長パネル	1000	自然科学一般	11010	代数学
	1000	自然科学一般	11020	幾何学
	1000	自然科学一般	12010	基礎解析学
	1000	自然科学一般	12020	数理解析学
	1000	自然科学一般	12030	数学基礎
	1000	自然科学一般	12040	応用数学、統計数学
	1000	自然科学一般	13010	数理解物理、物性基礎
	1000	自然科学一般	13020	半導体、光物性、原子物理
	1000	自然科学一般	13030	磁性、超伝導、強相関係
	1000	自然科学一般	13040	生物物理、化学物理、ソフトマターの物理
	589	エネルギー	14010	プラズマ科学
	589	エネルギー	14020	核融合学
	589	エネルギー	14030	プラズマ応用科学
	1000	自然科学一般	15010	素粒子、原子核、宇宙線、宇宙物理に関連する理論
	1000	自然科学一般	15020	素粒子、原子核、宇宙線、宇宙物理に関連する実験
	1000	自然科学一般	16010	天文学
	1000	自然科学一般	17010	宇宙惑星科学
	1000	自然科学一般	17020	大気水圏科学
	1000	自然科学一般	17030	地球人間圏科学
	1000	自然科学一般	17040	固体地球科学
	1000	自然科学一般	17050	地球生命科学
	589	エネルギー	80040	量子ビーム科学

創発POメッセージ（永長POの事例）

創発とは個々の要素からは想像もできないような現象や機能が要素間の相互作用を通じて発現することを意味しており、還元主義とは異なる考え方です。電子の集団を考えても、超伝導や磁性といった現象は多電子間の相互作用によってはじめて実現するものであり、それが多彩な世界を形作っています。これは物性物理学に限ったことではなく、素粒子・原子核といった極微の世界から、スケールの大きな地球物理学、天文学、宇宙物理学に至るまでの自然科学を貫く基本原理であることが認識されつつあります。そしてこれらの自然科学を支え、一方では自然科学から刺激を受けながら発展している現代数学の重要性は強調しすぎることはありません。

この創発という考え方は、研究者集団に対しても成立します。個々の研究者一人では成しえないことが研究者間の相互作用によって実現することは科学の歴史が証明しています。特に若い時期に様々な分野の研究者と触れ合うことは、その時にはすぐに実を結ばなくても長いキャリアの中で豊富な発想の源泉となってくれることでしょう。

本パネルでは、各分野の基本に関わるような基礎研究中長期にわたって支援すること、そして研究者集団の創発を推進することを目的にしています。難しいけれども解けたら素晴らしい、という課題にチャレンジする研究者を待っています。私およびアドバイザーの先生方は全力で皆さんをサポートしたいと考えています。

参照：募集要項6.1



人文社会系課題の採択例

人文社会課題の採択例（令和7年7月まで）

採択年度	氏名	研究機関（採択時）	所属部署（採択時）	研究課題名	パネル
2020	小川 正晃	京都大学	大学院医学研究科	期待外れを乗り越える動機づけの神経メカニズム	合田パネル
2021	温 文	東京大学	大学院工学系研究科人工工学研究センター	計算論的アプローチを用いた身体意識のモデル化と臨床検証	合田パネル
2021	笹野 遼平	名古屋大学	大学院情報学研究所	深層学習とフレーム意味論の融合	八木パネル
2021	鈴木 俊貴	京都大学	白眉センター	動物言語学の創出と展開	合田パネル
2021	高山 雄貴	金沢大学	理工研究域	空間経済分析枠組の再構築	堀巴パネル
2021	久野 遼平	東京大学	大学院情報理工学系研究科	認知・実態ネットワークによる社会情報の構造化	八木パネル
2021	布山 美慕	早稲田大学	人間科学学術院	量子確率を用いた不定な文章理解とその効果の認知研究	八木パネル
2022	有松 唯	広島大学	大学院人間社会科学研究所	鉄の文明：起源と形成のパラダイム転換	吉田パネル
2022	翁 岳暁	東北大学	学際科学フロンティア研究所	Design-Centered Governance for Human-Robot Co-Existence: From the Ethical Design Perspective 人間とロボット共存のためのデザイン中心ガバナンス：エシカルデザインの視点から	井村パネル
2022	二宮 太平	生理学研究所	システム脳科学研究領域	社会脳ネットワークの動作原理の解明に向けた心理・生理・解剖学的研究	合田パネル
2022	山本 真也	京都大学	高等研究院	内集団・外集団の形成メカニズムと集団心理の進化・発達	石塚パネル
2023	金崎 由布子	東京大学	総合研究博物館	先史アマゾンにおける自然共生型生産システムの解明	沖パネル
2023	中島 俊	筑波大学	国際統合睡眠医科学研究機構	自律型AIエージェントによる高精細心理療法の実装	鄭パネル
2023	林 正道	情報通信研究機構	未来ICT研究所脳情報通信融合研究センター	時空間情報の効率的な脳内処理機構の解明	後藤パネル
2023	三浦 貴大	産業技術総合研究所	人間拡張研究センター	視覚障害者の個人差を考慮した感覚代行の適応学習	鄭パネル
2024	上原 一将	豊橋技術科学大学	大学院工学研究科	脳脊髄神経相互作用から紐解く仮想現実身体環境インタラクション	後藤パネル
2024	太田 直理	九州大学	大学院人文科学研究院	非帰眼的刺激・脳機能計測と理論言語学による言語	鄭パネル

2020年度採択
研究課題名：期待外れを乗り越える動機づけの神経メカニズム 合田パネル

～ 折れないところを支える脳の仕組み ～

<研究概要>

本研究は、心理学で想定される「期待が外れてもそれを乗り越える動機づけ」に着目し、その動機づけを調べる動物行動モデルと生物学との先端的融合に挑戦して、動機づけの神経メカニズムの理解にブレークスルーをもたらします。また、こころの生物学的メカニズムを解明する新たな研究領域を創出します。その成果は、動機づけの異常が関わる精神・神経疾患の症状の理解や治療、教育法などの変革につながる事が期待されます。

氏名：小川正晃
所属機関：京都大学
役職：特定准教授

(心理学およびその関連分野/実験心理学関連)

期待外れを乗り越える動機づけを誘導する動物行動モデル  ← 先端的統合 →

1. 神経活動計測
2. 神経活動操作
3. モデリング

<略歴>

2000年東北大学医学部卒業、2007年京都大学PhD取得（医学）。2008年メリーランド大学ポスドク、2010年マサチューセッツ工科大学ポスドク、2013年生理学研究所特任助教。2016年京都大学大学院医学研究科助教、2017年同講師。2018年より同特定准教授。

国立研究開発法人科学技術振興機構 創発的研究支援事業 1

※氏名をクリックすると、研究概要が表示されます

参照：創発事業HP（人文社会審査チームページ）

https://www.jst.go.jp/souhatsu/outline/jinbun_researcher.html



注意事項等

- ✓ 本事業の応募は府省共通研究開発管理システム（e-Rad）で受け付けます。e-Radでの応募方法や注意事項は募集要項第5章に記載していますので、ご確認ください。
- ✓ 応募に際しての注意事項は募集要項第4章に記載していますので、応募前にご確認ください。
- ✓ これから説明する内容については、昨年度までと大きな変更はございません。詳細は募集要項をご参照ください。
- ✓ 指定された募集締切日時（5月14日（木）午前12時（正午））までに応募が完了していない提案については、いかなる理由があっても不受理とします。



パネル・分野のe-Rad登録時の注意

- ✓ 審査を主査する創発パネル（創発PO）、研究分野（主）、研究分野（副）をe-Radで必ず指定してください。研究分野（主）と研究分野（副）が同じでも構いません。
- ✓ 特に、研究分野（副）はe-Radのシステム上では「任意項目」となっていますが、必ず入力ください。
- ✓ 研究分野（主）に、「人文・社会」または「その他」に属する分野コードを登録した場合、研究分野（副）は、必ず「人文・社会」および「その他」に属さない分野コードを選択してください。
- ✓ 研究分野（主）・（副）の両方に「人文・社会」または「その他」に属する分野コードを登録した場合、提案を受け付けません。
- ✓ 審査の質の観点から、ご提案の研究分野に一番近いパネルおよび研究分野（主、副）を選択してください。なお、採択後には、パネル間の交流も推進します。

詳細は、募集要項 2.8.1、5.4、6.1へ



対象となる研究提案

失敗を恐れず長期的に取り組む必要のある挑戦的・独創的な内容で、以下①～⑤のいずれかに該当するような破壊的イノベーションにつながるシーズを創出する潜在性のある多様な科学技術に関する研究課題を求めます。

- ① 「新たな知の発見や創出」または「基本原理の解明」が期待されるもの
- ② 研究の多様性の観点から継続的に取り組まれるべき分野の研究であるもの
- ③ 新たな技術的知見の発掘や革新的な技術の開発が期待されるもの
- ④ 科学的・技術的知見の「融合」によるブレークスルーや新たな研究領域の創出が期待されるもの
- ⑤ 研究成果の実利用または普及のための社会やシステムの転換が期待されるもの

本事業では、失敗を恐れず長期的に取り組む必要のある挑戦的・独創的な内容で、破壊的イノベーションにつながるシーズを創出する潜在性のある研究を対象としておりますので、**理論的・基礎的な学術研究から応用研究に至るまで多様な研究課題を対象としています**。また破壊的イノベーションは予期せぬところから生まれると言われております。そのため**現時点で経済的な価値が明確でない研究も対象とします**。

詳細は、募集要項 2.1 公募の対象となる研究提案 [へ](#)



<補足> 提案にあたっての留意点

- 「破壊的」「挑戦的」＝「無謀」ではありません。審査では、提案内容に加え、それを実現する一定程度の「エビデンス」および、その挑戦的な研究を遂行する意欲・ポテンシャルを、総合的に評価します。なお、ここで言う「エビデンス」には、ご自身の成果だけでなく、他の研究者の論文や報告なども含みます。
- 創発事業では、挑戦的な研究を実現する研究者の遂行能力を評価するため、提案書の「創発的研究を実施する上での遂行能力」において「提案者の貢献」「アピールポイント」を記入して頂いております。また書面だけではなく、面接による評価を行っています。
→ 参照：提案書様式5-2
- 研究提案者が指定した専門分野の専門家、創発 AD、人文社会分野の専門家等の協力を得て、研究提案者が指定した創発 PO が書類選考及び面接選考を行います。



選考の観点

- ✓ 本事業の趣旨に合致しているか
- ✓ 本提案募集の対象となる研究提案であるか
- ✓ 研究提案者自らの構想に基づく研究提案であるか
- ✓ 研究構想を実現しようとする意欲があり、実現の可能性が感じられるか
- ✓ 必要な研究遂行能力及び体制を有しているか

次ページへ続く



選考の観点

- ✓ 研究構想の実現に向けた実践や他の研究者との議論・相互触発の取組等を通じて、新興・融合領域の開拓、関係研究分野の継続的な発展への貢献が期待できるか
- ✓ 創発的研究の遂行にふさわしい研究環境の確保に向けて、必要に応じて研究機関に対し協力を求めたり、調整したりする意志があるか
- ✓ 独立見込み（3年以内）の場合、独立に向けた意欲が高く、また可能性が高いか

詳細は、募集要項 2.9 選考の観点 へ



応募要件

- ✓ 研究提案者自らの研究構想に基づく研究提案であること。
- ✓ 自ら発案した研究構想を実現するために自立して研究を推進できること。
- ✓ 所属研究機関において研究倫理教育に関するプログラムをあらかじめ修了していること。又はJSTが提供する教育プログラムを応募締切までに修了していること。

詳細は、募集要項 2.6 応募要件 [へ](#)



応募要件（所属等）

- ✓ 日本国内の研究機関に在籍の上、創発的研究を実施できること。
- ✓ 応募時に日本の研究機関に所属していない研究者は、2026年12月1日までに日本国内の研究機関に所属し研究開始することを条件として応募できます。
- ✓ 採択時に海外機関に所属している研究者については、研究開始の時期を採択後最大2年間猶予します。
 - 採択後2年以内に日本の研究機関に所属してください。
(応募時に帰国後の所属が決まっていなくても問題ありません)

詳細は、募集要項 2.6 応募要件 [へ](#)



応募要件（研究費獲得経験等）

- ✓ 自己の責任と権限により使用可能な研究費（研究代表者として獲得した研究費）を、過去に受給していたことがある、又は受給中であること。なお、これに準ずるものとして、現在までに研究費を受給していない特段の事情がある場合などは提案書に理由を明記すること。

- ✓ 所属する研究機関内の研究者のみを対象とした公募は含みません。

詳細は、募集要項 2.6 応募要件 [へ](#)



応募要件（経験）

- ① 2026年4月1日時点で博士号取得後15年以下
（2011年4月2日以降に博士号取得）
- ② 医学、歯学又は獣医学を履修＋博士課程修了後に臨床研修を修了
→ 2026年4月1日時点で博士号取得後17年以下

<< 研究に専念できない期間があった場合 >>

- ③ 博士号取得後から15年以内（②17年以内）に、出産・育児の期間
→ 2026年4月1日時点で博士号取得後20年以下（②22年以下）
- ④ 博士号取得後から15年以内（②17年以内）に介護等の期間
→ ①および②の条件に当該期間分（最大2年）を引き上げる
- ★ ③＋④の場合でも博士号取得後20年以下（②22年以下）を上限

詳細は、募集要項 2.6 応募要件 へ



応募要件（経験） <事例>

博士号取得

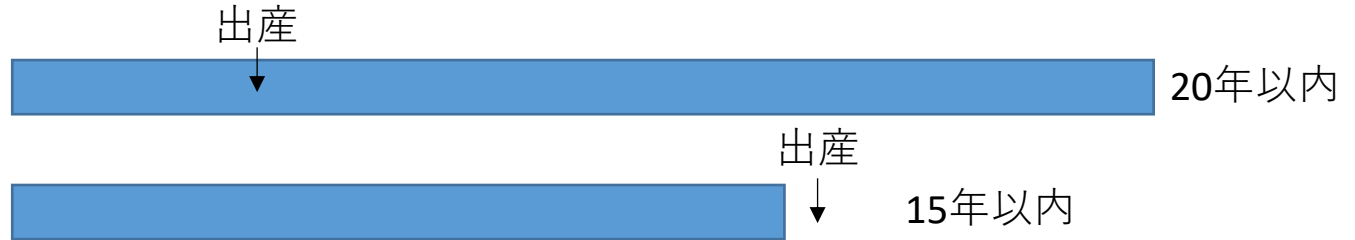
博士号取得後年数



原則



出産・育児
経験あり



介護経験あり



出産・育児
・介護経験あり



臨床研修
経験あり

臨床研修





応募要件（研究費の重複制限）

研究代表者等として獲得している場合 ※本年度が最終年度の場合応募可能です。

<重複制限対象事業>

・日本学術振興会所管の事業（科学研究費助成事業）

特別推進研究、新学術領域研究（研究領域提案型）（領域代表者のみを対象とする※1）、
学術変革領域研究（A）（領域代表者のみを対象とする※1）基盤研究（S）

・科学技術振興機構所管の事業

- ・ 未来社会創造事業（探索加速型（本格研究）及び大規模プロジェクト型）
- ・ 戦略的創造研究推進事業（ERATO、CREST、さきがけ（※2）、AIP加速課題の研究代表者のみを対象とする。ただし、AIP加速課題は、さきがけ・CREST終了課題に関連する研究課題の研究代表者のみを対象とする）
- ・ ムーンショット型研究開発事業（プロジェクトマネージャーを対象とする。ただし、ムーンショット目標8、9はコア研究のプロジェクトマネージャーのみを対象とする）
- ・ A-STEP（産学共同（本格型、シーズ育成タイプ））
- ・ 革新的GX技術創出事業（GteX）（チーム型研究のチームリーダーのみを対象とする）
- ・ 戦略的創造研究推進事業先端的カーボンニュートラル技術開発（ALCA-Next）（加速フェーズの研究開発代表者のみを対象とする）
- ・ 経済安全保障重要技術育成プログラム（K Program）（プロジェクト型及び個別研究型の研究代表者のみを対象とする）

※1 計画研究と公募研究の研究代表者は対象ではありません。

※2 さきがけ・PRIMEの場合、研究開始の猶予制度があります。



応募要件（研究費の重複制限）

研究代表者等として獲得している場合 ※本年度が最終年度の場合応募可能です。

<重複制限対象事業>

・日本医療研究開発機構所管の事業

- ・ 革新的先端研究開発支援事業（LEAP、AMED-CREST、PRIME（※）、FORCEの研究代表者のみを対象とする。）
- ・ ムーンショット型研究開発事業（プロジェクトマネージャーを対象とする）

・新エネルギー・産業技術総合開発機構所管の事業

- ・ ムーンショット型研究開発事業（プロジェクトマネージャーを対象とする）

・農業・食品産業技術総合研究機構所管の事業

- ・ 生物系特定産業技術研究支援センター（BRAIN）ムーンショット型農林水産研究開発事業（プロジェクトマネージャーを対象とする）

※ さきがけ・PRIMEの場合、研究開始の猶予制度があります（次ページ参照）。

詳細は、募集要項 2.6 応募要件 [へ](#)



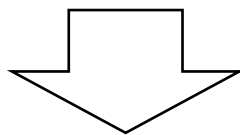
応募要件（研究費の重複制限）

重複制限対象事業

当該研究が最終年度である場合

※ JSTさきがけ & AMED-PRIME

2027年3月末までに当該研究が終了する予定



本年度創発への応募可能です

詳細は、募集要項 2.6 応募要件 へ



【応募前対応必須】研究インテグリティに係る情報の登録

- ✓ e-Radの改修以降(2022年3月15日以降)に本情報の入力を行っていない場合は、必ずご対応ください。登録済みの方は必要ありません。
- ✓ 上記入力事項における「(3) 誓約状況」のチェックボックスに必ずチェックしてください。**チェックがない場合、応募が完了できません。**

e-Rad外の研究費の状況および役職と所属機関への届け出状況

(1) e-Rad外の研究費

契約の種類	相手機関(相手機関の国名) 制度名 研究課題名 (研究期間)	予算額	エフォート (%)	機密保持契 約締結有無	削除
-------	---	-----	--------------	----------------	----

☛ 行の追加

(2) (兼業や、外国の人材登用プログラムへの参加、雇用契約のない名誉教授等を含む) 現在の全ての所属機関・役職

兼業、外国の人材登用プログラムへの参加、あるいは雇用契約のない名誉教授等	相手機関の所在地	削除
--------------------------------------	----------	----

☛ 行の追加

(3) 誓約状況
寄附金等や資金以外の施設・設備等の支援を含む、自身が関与する全ての研究活動に係る透明性確保のために必要な情報について、関係規程等に基づき所属機関に適切に報告しているか。

報告している

誓約状況履歴

変更日時	変更内容
------	------

e-Radログイン後メニュー
> 研究者情報の確認・修正
> 所属研究機関

詳細は、「募集要項4.4」、「別紙：府省共通研究開発管理システム（e-Rad）による応募方法」へ



【応募時対応必須】安全保障貿易管理について

- ✓ 本公募は安全保障貿易管理の要件化対象です。
安全保障貿易管理の詳細 <https://www.meti.go.jp/policy/anpo/gaiyou.html>
- ✓ 所属研究機関の安全保障貿易管理体制が「未整備」または「整備中」の場合、e-Radの申請画面内に、下図の入力項目が表示されます。**内容確認のうえ、「あり」もしくは「なし」を選択してください。**
- ✓ なお、本項目で「あり」と回答し、所属機関における安全保障貿易管理体制の整備が必要な場合は、e-Radでの応募（申請）を完了後、所属機関の事務担当部署に確認してください。

安全保障貿易管理

本公募は安全保障貿易管理の要件化対象の公募です。
所属研究機関の安全保障貿易管理体制が未整備又は整備中となっているため、以下について回答してください。

「本公募を通じて取得した（する）貨物・技術であって、外国為替及び外国貿易法のリスト規制に該当する貨物・技術を輸出（提供）する予定又は意思はありますか。提供は、国外への提供に加え、非居住者への国内での提供、非居住者の強い影響を受ける居住者への国際での提供を含みます。」

なお、質問に「あり」と回答した場合は、所属研究機関の安全保障貿易管理体制について、外国為替及び外国貿易法第55条の10第1項に規定する「輸出等」又は本事業終了のいずれか早い方までに整備が必要です。また、契約時までに、所属研究機関から、安全保障貿易管理体制を構築する旨の誓約書の提出が必要です。（体制整備に関すること及び誓約書提出については、所属研究機関の事務担当部署に確認してください。）

※安全保障貿易管理の詳細は、次のURLから確認してください。
<https://www.meti.go.jp/policy/anpo/gaiyou.html>

リスト規制対象貨物の輸出又は技術の提供の予定の有無 あり なし

詳細は、「募集要項4.5」「募集要項5.2」、「別紙：府省共通研究開発管理システム（e-Rad）による応募方法」へ



本資料は概要の紹介です。

応募にあたっては必ず募集要項をお読みください。



募集・選考に関する連絡・お問い合わせ

募集・選考期間の連絡事項は

創発的研究支援事業の募集ホームページ

<https://www.jst.go.jp/souhatsu/call/index.html>

にて公開しています。

ご不明な点がありましたら、募集ホームページに記載している問合せ先へご連絡ください。

souhatsu-application*jst.go.jp ←*を@に変えてください